



提供年月日：平成17年(2005年)12月26日
部局名：琵琶湖環境部
所属名：資源循環推進課
担当名：廃棄物指導担当
担当者名：中村、田中
内線：3474
電話：077-528-3474
E-mail：df00@pref.shiga.lg.jp

アール・ディエンジニアリング最終処分場 周縁地下水調査結果について

栗東市小野の㈱アール・ディエンジニアリング最終処分場について、周辺環境への影響を把握するため、当該処分場の周縁地下水モニタリング調査を行っているところですが、平成17年9月に実施しました調査の結果は、以下のとおりでしたのでお知らせします。

なお、モニタリング調査は、今後も継続していくこととしており、これら調査結果を踏まえながら、必要な検討を行い、適切な対応を図っていくこととします。

記

1. 調査日 平成17年9月29日(木)
(平成17年度は四季毎に1回の計4回実施することとしており、今回の調査は今年度2回目の調査となります。)
2. 調査実施者 滋賀県琵琶湖環境部資源循環推進課
3. 調査地点 (別添位置図参照)
周縁地下水 ... No.1、No.2、No.3
場内浸透水 ... No.6
4. 調査項目 周縁地下水 ... BOD等の一般項目の他、有害物質24項目
場内浸透水 ... BOD等の一般項目の他、有害物質9項目
5. 調査結果
(周縁地下水)
 - ・No.1では、ほう素が環境基準値(1.0mg/l)を1.1倍、シス-1,2-ジクロロエチレンが環境基準値(0.04mg/l)を1.75倍、それぞれ超過したが、それ以外の項目については環境基準を超えたものはなかった。
 - ・No.2では、ひ素が環境基準値(0.01mg/l)を1.2倍超過したが、それ以外は環境基準を超えたものはなかった。
 - ・No.3では、環境基準を超えたものはなかった。
(場内浸透水)
 - ・No.6では、ほう素が環境基準値(1.0mg/l)を3.3倍超過したが、それ以外の項目については環境基準を超えたものはなかった。
6. 備考
(周縁地下水)
 - ・前回に調査を行った事業者の自主監視用井戸(No.9)は、沈積物等が多く調査を見送った。

資料 分析結果（周縁地下水）

調査地点	周 縁 地 下 水			
	NO. 1	NO. 2	NO. 3	
採取日	H17.9.29	H17.9.29	H17.9.29	
現場測定項目				
気温（ ）	20.8	24.0	18.8	
水温（ ）	22.2	17.0	26.5	
採水水深（m）(GLより)	10.30	14.98	14.37	
分析結果				地下水環境基準
	全量分析	全量分析	全量分析	ろ液分析
pH	6.3	7.3	5.6	
BOD (mg/l)	2.8	1.4	<0.5	
COD (mg/l)	31	3.4	4.9	
SS (mg/l)	74	14	480	
亜硝酸性窒素及び 硝酸性窒素 (mg/l)	0.01	0.01	0.28	10mg/l
カドミウム (mg/l)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l
鉛 (mg/l)	<0.005	<0.005	0.007	0.01mg/l
六価クロム (mg/l)	<0.02	<0.02	<0.02	0.05mg/l
ほう素 (mg/l)	1.1	<0.1	<0.1	1.0mg/l
シアン (mg/l)	ND	ND	ND	検出されないこと
ふっ素 (mg/l)	0.21	0.18	<0.08	0.8mg/l
ひ素 (mg/l)	<0.005	0.012	<0.005	0.01mg/l
セレン (mg/l)	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/l
総水銀 (mg/l)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/l
アルキル水銀 (mg/l)	ND	ND	ND	検出されないこと
PCB (mg/l)	ND	ND	ND	検出されないこと
トリクロロフェン (mg/l)	<0.002	<0.002	<0.002	0.03mg/l
テトラクロロフェン (mg/l)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/l
1,1,1-トリクロロエタン (mg/l)	<0.002	<0.002	<0.002	1mg/l
四塩化炭素 (mg/l)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/l
ジクロロメタン (mg/l)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l
1,2-ジクロロエタン (mg/l)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/l
1,1,2-トリクロロエタン (mg/l)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/l
1,1-ジクロロフェン (mg/l)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l
1,2-ジクロロフェン (mg/l)	0.07	<0.004	<0.004	0.04mg/l
1,3-ジクロロベンゼン (mg/l)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/l
ベンゼン (mg/l)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l
ダイオキシン類 (pg-TEQ/l)	0.22	0.032	0.22	0.070
(参考) EC (mS/m)	161	14.5	9.43	-

TEQ：毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は、異なっている。このため、混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロジベンゾダイオキシン)に換算した数値。

全量分析：試料をろ過せずに全量を分析。

ろ液分析：NO. 3のダイオキシン類については、参考として、ろ液分析用に採水した検液を1µmフィルターによりろ過を行い、そのろ液を分析。(平成15年12月調査時全量分析と併せ実

資料 分析結果（浸透水）

		浸透水	
調査地点		NO. 6	
採取日		H17.9.29	
現場測定項目			
気温 ()		21.0	
水温 ()		31.4	
水頭 (GLより)		18.48	
分析結果		地下水環境基準	
pH		7.5	
BOD (mg/l)		2.6	
COD (mg/l)		43	
SS (mg/l)		95	
亜硝酸性窒素及び 硝酸性窒素 (mg/l)		10mg/l	
カドミウム (mg/l)		0.01mg/l	
鉛 (mg/l)	<0.005	0.01mg/l	
六価クロム (mg/l)		0.05mg/l	
ほう素 (mg/l)	3.3	1.0mg/l	
シアン (mg/l)		検出されないこと	
ふっ素 (mg/l)	0.74	0.8mg/l	
ひ素 (mg/l)	<0.005	0.01mg/l	
セレン (mg/l)		0.01mg/l	
総水銀 (mg/l)	<0.0005	0.0005mg/l	
アルキル水銀 (mg/l)		検出されないこと	
PCB (mg/l)		検出されないこと	
トリクロロエレン (mg/l)	<0.002	0.03mg/l	
テトラクロロエレン (mg/l)	<0.0005	0.01mg/l	
1,1,1-トリクロロエタン (mg/l)		1mg/l	
四塩化炭素 (mg/l)		0.002mg/l	
ジクロロメタン (mg/l)		0.02mg/l	
1,2-ジクロロエタン (mg/l)		0.004mg/l	
1,1,2-トリクロロエタン (mg/l)		0.006mg/l	
1,1-ジクロロエレン (mg/l)		0.02mg/l	
シス-1,2-ジクロロエレン (mg/l)	<0.004	0.04mg/l	
1,3-ジクロロプロペン (mg/l)		0.002mg/l	
ベンゼン (mg/l)	<0.001	0.01mg/l	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/l)		1.0pg-TEQ/l	
(参考) EC (mS/m)		343	

地下水調査地点平面図

